

感染症発生動向調査

Infectious Diseases Weekly Report

2023年第34週 (8月21～27日)

(国立感染症研究所感染症疫学センター)

●全数報告の感染症 (1～5類感染症)

(今週の報告数/累積。累積は2023年第1週から)

疾患名	報告数	累積
[1類]		
(報告なし)		
[2類]		
結核	260	9080
[3類]		
コレラ		1
細菌性赤痢	1	25
腸管出血性大腸菌感染症	213	2176
腸チフス		27
パラチフス		6
[4類]		
E型肝炎	4	379
A型肝炎		33
エキノкокクス症	1	10
エムボックス ¹⁾		187
オウム病		7
回帰熱		15
コクシジオイデス症		1
重症熱性血小板減少症候群		108
チクングニア熱		2
つつが虫病	1	111
デング熱	9	75
日本紅斑熱	16	258
ブルセラ症		1
マラリア		12
ライム病		18
レジオネラ症	36	1377
レプトスピラ症	3	13
[5類]		
アメーバ赤痢	10	333
ウイルス性肝炎 ²⁾	4	166
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 ³⁾	40	1219
急性弛緩性麻痺 ⁴⁾	1	40
急性脳炎 ⁵⁾	8	353
クリプトスポリジウム症	1	7
クロイツフェルト・ヤコブ病	2	99
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	10	549
後天性免疫不全症候群	8	620
ジアルジア症	1	32
侵襲性インフルエンザ菌感染症	5	364
侵襲性髄膜炎菌感染症		11
侵襲性肺炎球菌感染症	16	1170
水痘 (入院例に限る)	2	248
梅毒	223	9798
播種性クリプトкокクス症		111
破傷風	3	71
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1	81
百日咳	18	617
風しん		10
麻疹	1	23
薬剤耐性アシネトバクター感染症		11

1) 2023年5月26日よりサル痘から感染症法上の名称が変更。2) E型肝炎およびA型肝炎を除く。3) 2023年5月26日よりカルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症から感染症法上の名称が変更。4) 急性灰白髄炎を除く。5) ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ペネズエラウマ脳炎およびリフトバレー熱を除く。

●定点把握の5類感染症

(「定点当たり」は報告数/定点医療機関数)

疾患名	報告数	定点当たり
インフルエンザ ⁶⁾	6910	1.40
新型コロナウイルス感染症	93792	19.07
RSウイルス感染症	1992	0.64
咽頭結膜熱	2128	0.68
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3546	1.13
感染性胃腸炎	8631	2.76
水痘	251	0.08
手足口病	2945	0.94
伝染性紅斑	37	0.01
突発性発しん	911	0.29
ヘルパンギーナ	3399	1.09
流行性耳下腺炎	133	0.04
急性出血性結膜炎	13	0.02
流行性角結膜炎	440	0.63
細菌性髄膜炎 ⁷⁾	9	0.02
無菌性髄膜炎	18	0.04
マイコプラズマ肺炎	13	0.03
感染性胃腸炎 (ロタウイルス) ⁸⁾	3	0.01
インフルエンザ (入院患者)	166	—

6) 鳥インフルエンザおよび新型コロナウイルス等感染症を除く。7) 髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。8) 病原体がロタウイルスであるものに限る。

●定点把握の対象となる5類感染症

(前週からの定点当たりの増減と多い地域)

疾患名	増減	地域
インフルエンザ	▲	沖縄、宮崎、福岡
新型コロナウイルス感染症	▲	岩手、青森、宮城
RSウイルス感染症	▼	高知、福島、山形、富山
咽頭結膜熱	▲	大阪、福岡、兵庫
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	▲	沖縄、鳥取、福岡
感染性胃腸炎	▲	大分、宮崎、香川
手足口病	▲	福岡、佐賀、宮崎
伝染性紅斑	▲	岩手、山梨、静岡、徳島、佐賀、鹿児島
ヘルパンギーナ	▲	山形、福島、青森
流行性耳下腺炎	▲	秋田、福井、岡山、鹿児島
マイコプラズマ肺炎	➡	茨城、青森、岩手

◆中東呼吸器症候群 (MERS-CoV) : サウジアラビア

サウジアラビア保健省はWHOに、死亡例2例を含む3例の中東呼吸器症候群コロナウイルス (MERS-CoV) 検査確定症例を報告した。3例は非医療従事者の男性で、発熱、咳嗽、息切れ、合併症があった。うち2例はヒトコブラクダとの接触歴があり、3例とも発症14日前にラクダの生乳を摂取していた。